

第1回 米代川圏域大規模氾濫に関する減災対策協議会

第5回 米代川圏域流域治水協議会

能代河川国道事務所

～国、県の減災対策協議会を統合～
～関係機関が一体となって流域治水をより一層推進～

1. 概要

これまで個別に開催されていた、国、県の減災対策協議会を統合し、**第1回 米代川圏域大規模氾濫に関する減災対策協議会**として初の協議会。第5回米代川圏域流域治水協議会との同時開催とし、規約の制定や、「減災に関わる取組方針」の改定、両協議会の今後の展開について**承認**されました。委員からは令和4年8月の豪雨災害を受け、**圏域一体となって取り組む流域治水**がより重要となり、情報共有等連携を図りたい旨の発言が多く出されました。また、情報提供では、令和4年9月30日に公表された**多段階浸水想定図(リスクマップ)**、令和4年4月に公開された**田んぼダムの手引き**等が紹介されました。

2. 実施状況

日時：令和4年9月30日（金）14時00分～15時10分
会場：WEB会議（Microsoft Teams）
出席：能代市長、北秋田市長、大館市長、鹿角市長、小坂町長、藤里町長、八峰町長
秋田県総務部危機管理監、秋田県農林水産部長、秋田県建設部長
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 東北北海道整備局長
東北農政局 西奥羽土地改良調査管理事務所長
東北森林管理局 米代東部森林管理署長
気象庁 秋田地方気象台長
能代河川国道事務所長
(一部代理出席)

4. 主なご意見・コメント等

【大館市長】

- ・大館市議会では「8月豪雨災害を経験してからの現実的な水防災社会をどう作り上げていくか」という議題が主となり、流域治水の考え方が一気に広がったと感じている。
- ・今回の災害を受け、米代川から工業・農業・上水事業等で多くの恩恵を受けていることを再認識した。メリットからリスクを考える、新しい切り口もあるのではないか。

【能代市長 代理：都市整備部長】

- ・過去には被害があったが近年は特出した被害がなく、河道掘削や築堤等の治水事業に感謝している。
- ・立地適正化計画の策定や地域防災計画の修正を行っており、引き続きソフト対策にも取り組んでいく。

【北秋田市長 代理：総務課長】

- ・人身被害は無かったものの、農林、土木関連施設の被害は甚大であり、現在復旧に向け取り組んでいる。
- ・過去に集落が被害を受けたが、現在は森吉山ダム竣工の効果が目に見えて現れていると感じている。

【鹿角市長 代理：総務課長】

- ・わずか2時間ほどの間に150mmの雨を経験した。災害はあっという間であり、備えが大切であると実感した。
- ・小規模河川の対策が強く求められていると感じた。

3. 議事

- (1) 規約改正（減災対策協議会 規約制定）
（流域治水協議会 規約改正）
- (2) 「減災対策協議会」・「流域治水協議会」今後の展開について
- (3) 米代川圏域「減災に係る取組方針」の改定について
- (4) 令和4年度の取組み状況（フォローアップ）について
- (5) 各機関からの情報提供

⇒ ※議事終了後に出席委員（市町村）からご発言



〔WEB会議の様子〕